

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0491500021		
法人名	社会福祉法人 大崎市社会福祉協議会		
事業所名	鹿島台支所 グループホーム和楽路		
所在地	宮城県大崎市鹿島台広長字尻掛杉ヶ崎7-1		
自己評価作成日	平成26年10月7日		

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/">http://www.kaigokensaku.jp/</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 介護の社会化を進める一万人市民委員会宮城県民の会		
所在地	宮城県仙台市宮城野区榴岡4-2-8 テルウェル仙台ビル2階		
訪問調査日	平成26年10月17日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>1.面会、季節の行事の他、年4回家族報告会を実施しご家族様、入居者様、スタッフとの交流を図っている。</p> <p>2.和楽路だよりを月1回発行し、生活の様子、ボランティアの支援の様子などを伝えている。</p> <p>3.運営推進会議を中心とし、地域密着型の基盤を大切にしながら地域の方々が訪問できる体制作りを行っている。</p> <p>4.和楽路を多く知って頂くためにホームページを活用して和楽路の最新情報を掲載している。</p> <p>5.総合防災訓練を年3回行い、その際には地域の方々、民生委員の方々に応援して頂きながら、更なる地域密着を図っている。防災訓練のない月は図上訓練を行っている。</p>
---

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>事業所は大崎市社会福祉協議会の経営であり、鹿島台市街地の西方の、静かな郊外の高台にある。事業所で、入居者・家族の「サービス満足度調査」を実施しケアの改善に努めており、職員の「自己評価」に対する指導が支所に於いて行なわれている。大崎市の「安心相談員」がホームの入居者を訪問しており、事業所・大崎市社協鹿島台支所・大崎市とが一体となって取り組んでいる。入居者全員がトイレでの排泄支援を行う等自立支援に向けて取り組んでいる。夏祭り等の行事に近隣の住民の協力・参加があり、事業所は地域住民と日常的に交流している。</p>
---

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

2 自己評価および外部評価結果(詳細)(事業所名 **グループホーム 和楽路** )「ユニット名

自己	外部	項目	外部評価	
			自己評価 実践状況	実践状況 次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>				
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	前年度末に理念見直しを行う為の話し合い変更しております。また、管理者と職員が理念を共有しながら各々人に合った支援や個人の尊重、尊厳を大事にした関わりを持っている。理念、方針は事務室とホールに掲示し、統一事項等については、ホーム会議等に話し合いを行っている。	「地域の皆様と共に家庭的な環境でその人らしく楽しい生活を送る」の理念のもと、入居者の思いや意向を尊重し、家庭菜園で収穫を楽しむなど家族的な生活にするよう支援している。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	ほぼ毎月、地域のボランティア様の来所により演奏が行われる。夏祭りでは、ボランティア様や地域住民が来所され延べ人数で151名の参加となる。年4回のお茶会では行政区への回覧や民生委員の協力を頂き一人暮らしの方へのご案内等を行い交流を図っている。地域有志の方々が和楽路周辺等の除草作業を草刈り機で行って頂ける。	地域の人による踊りや大正琴の演奏及び合唱等の演芸を楽しみ、夏祭りには焼き鳥等出店も出て賑う。お茶会は抹茶とお菓子、茶道の雰囲気を楽しんでおり、地域に密着した交流が行なわれている。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方々には、「夏祭り」等の案内をエコープ等に掲示したり、回覧板にして種々の行事に参加して頂いております。また、防災訓練を消防署、地域の皆様や民生委員の方をお招きして防災訓練後「緊急時の対応。AEDの取扱い方や水消火器での消火訓練」の研修も合わせて行っている。	
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議規程を作成し年6回、22年度から10名の構成員、日々の生活の様子、事業報告、質疑の回答、応答して頂き、質の向上に努めております。	地域包括職員、民生委員、区長、入居者、家族、地域代表等の参加により、双方向的な意見が出されている。事業所からの夏祭りの計画の紹介に、その準備及び周辺の草刈り等の支援が行なわれている。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	地域包括支援センター職員に運営推進委員を行って頂き、市役所担当者には、不明な点がある時など連絡を取り、相談を行っている。	地域包括から研修の情報をもらい、保健師から食中毒等に関するアドバイスをもらっている。市担当者とは提出書類に関する細部の確認を行なっており、市主催の認知症等に関する研修等の案内をもらっている。
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止の指針、倫理綱領を基に「身体拘束ゼロ」を行っており、職員も正しく理解し、徹底しておりますので、身体拘束は行っておりません。	身体拘束排除について、年間計画で所内研修を実施しており、ホーム会議でも身体拘束に当たらないか話し合っている。入居者が外出しようとする姿が見えると職員が付いて、近所を散歩している。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止について職員間で研修を行い、職員の周知徹底を図っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	入居者様の生活を守る為に、月1回及び随時、ホーム会議等を開催し、また権利擁護に関する外部への研修にも職員が参加しております。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時及び退所時には、十分な説明を行い、納得して頂いてから書類に署名、押印をして頂いてから契約、解約を行っております。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進委員の中に、ご家族代表の方も参加して頂き、意見を反映しております。家族報告会にて利用者様状況の報告やご家族様からの意見なども聞いている。安心相談員2名が年に3回来所され、入居者の意見等を聞いていかれます。	「家族報告会」で意見を聞いており、「ここに入居しているお陰で元気である」等の意見が多い。家族から、通院の付き添い、靴等の買い物の依頼や、おやつの量の調整等の相談があり、対応している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ホーム会議を月1回開催し、緊急時等には、随時ホーム会議を開催し、また、連絡簿とは別に連絡帳を常時置き、スタッフがいつでも提案できる場を作っております。意見箱を設置している。	トイレの誘導のタイミング、便秘のときの下剤の量等について、相談し合い実施している。早番・遅番等の役割の細部を見直し、作業全般の流れをスムーズにする案を取り入れ、ケアの充実に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	法人就業規定を職員が閲覧できるように配置している。年2回、自己評価を職員に記入してもらい、管理者、係長、副支所長、支所長が評価を行っています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年2回の自己評価時に希望の研修を確認し、勤務調整にて研修に参加している。常に相談できる環境作りに努め、職員一人ひとりのケアに努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会に入会し、協議会主催の研修会には参加出来る体制作りを行っている。また、大崎市による認知症推進チームや、キャラバンメイト等にも参加している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	特に不安と混乱の中で生活して頂いている方については、傾聴し、安心して頂いております。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所後2週間は暫定プランを作成また、毎日生活状況を記録し、その都度、ご本人様、ご家族様が不安にならないように連絡を密に取っております。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人様とご家族様の意向を伺いながら、必要としているサービスを見極めた対応しております。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	食器拭きや洗濯物たみ等、場面作りを行いながら、支え合う関係作りをしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	情報を共有する為に、随時、電話等や面会時にお話しをして一緒にご本人を支えて行く関係作りを築いております。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族、親戚の方々が来所しやすいホームづくりに努めております。また、ご家族の協力を頂き自宅への外出等を支援しております。	馴染みの理美容院やスーパーに行っている。ホームの行事で訪れた人が入居者に気付いたり、「子供神輿」で甥に出会ったりする。自宅に外出することもあるが、「帰らなくては」と早めに戻って来る入居者もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一人ひとりの個性を大切に、プライドを傷つけないような支援に努めております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要な情報等を提供する際は、いつでもご相談できる体制作りを行っています。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの思いや要望に出来るだけお応えし、馴染みの家具や写真などをお部屋に飾るなど雰囲気作りに努めております。	表情や細部の行動を観察し思いや意向の把握に努めている。かつて畑作業していた入居者はその人専用のプランターに、茄子・トマト等を種蒔きから愛情をもって育て、収穫の喜びを味わっている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	バックグラウンドアセスメントを活用しながら、その方の生活環境に合った関わり方を行っています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	8時と14時にバイタルチェック(検温、血圧、脈)を行い、早期発見・早期対応に努めております。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入居者、ご家族、スタッフと話し合いながら作成しております。	3カ月毎に計画を見直している。食器の拭き方等の手伝いが難しくなりテーブル拭き等に変えたり、糖尿病の入居者の食事量が変わり、食器や塩加減等について計画に取り入れれ実施している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	生活記録に生活の様子、健康状態、月1回の所見時にケアプランに添った記録を行っています。また、ホーム会議にて職員間の情報を共有し、介護計画の見直しに努めております。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時の、個々人の要望に合わせてながら支援しております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	その時の状況に合わせてながら民生委員、ボランティア、消防署等の協力を頂きながら、防災訓練や行事等を行っております。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	個々人のご希望に添って、かかりつけ医を決めております。	通院には職員が付き添っている。体温、脈等バイタルチェックを行っており、受診の判断は主として職員が行っている。入居者が低いベッドからずり落ちたときは、看護師に来て見てもらい病院に連れていったこともある。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	ホームの看護師(兼務)が時々巡回に来て、入居者様の健康管理に携わっています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	長期入院になる場合はご家族様、看護師、管理者、係長、医師と話し合いを行い、どうしてもホームへ戻れない時は、次の入所先が見つかるまで支援を続けております。また、ホームでの生活が出来なくなる事も鑑み、特養施設への入所申込みをして頂いております。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に、「ターミナル時の意思確認」を取り、身体低下時は、再度確認をしております。また、「ターミナル期」に近づいた時は、ご家族様、医師との連携を図るシステム作りを行っておりますがまだ一度もホームでの看取りケアは行っておりませんが研修参加等もしております。	「ターミナルケアの意思確認書」「ターミナルケアの指針」を作成し、家族の合意を得ている。全介助になってホームでの生活が難しくなった場合、家族・医師と相談し、特養等の紹介を考えている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	防災訓練時に、消防署より「救急救命について」や「AEDの使い方」などの研修を行ったり「水消火器での消火訓練」を行っております。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協働体制を築いている	年3回、防災訓練を実施し、また、応援体勢として地域のボランティア様、民生委員、消防団との連携が取れる様にマニュアルを作成しております。今年度は年3回実施し、図上訓練を訓練のない月に全スタッフが行っております。	図上訓練でも災害発生時の安全避難方法を反復練習している。居室の各人の「名札」を裏返すと「避難済み」の表示が出るように工夫している。懐中電灯及び予備の電池を居室・トイレ等にも備えつけてある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシー確保の為に、勉強会等も随時実施しており、耳元で声掛けをしたり、他者に漏れないような配慮を行い、記録等を保管する場所についても、鍵をかけております。	話しかけは名前で呼びかけるなど、個々の尊重に配慮している。帰宅願望の入居者には、散歩やドライブで対応しているが、どのようにして帰宅願望を少なくし生活を楽しめるようにするか、工夫を重ねている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人の思いに傾聴し、普段から自己決定出来るように働きかけている。何度も同じ話をする方については、傾聴し、思いを共有する事により、落ち着いて頂いております。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご本人がお部屋で過ごしたい時などは、日課や都合を優先することなく、その方に合わせた支援を行っております。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	個々人に合わせたカット、パーマ、毛染めを行い、その人らしい生活が出来るよう支援しております。カット、パーマ、毛染め等は近くの美容院にお連れし、また、出張理髪もして頂いております。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の名前を付けたプランターや和楽路の畑で採れた野菜を提供したり、本人が水やりなどを行い栽培した物を召し上げて頂いております。利用者の意見を取り入れたり、季節や行事に合わせてメニューの作成をしております。食器拭きやお膳拭きのお手伝いもして頂いております。	献立は職員が作り、入居者の希望も聞いて、取り入れている。食べられない肉を卵にする等代替えの食事を用意している。好き嫌いははっきり表示できない入居者の残食を観察して、どんな食事が好きか把握している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分摂取量チェックを行っており、また、献立表はスタッフが季節や行事に合わせて作成し、作成した献立は管理栄養士にチェックして頂いております。また、偏食のある利用者様には代替食をお出しし、また、きざみ食、補食等も提供しております。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアの物品は、スタッフが準備し、毎食後に声掛け、一部介助にて清潔保持に努めております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々人のチェック表にて排泄パターンを把握し、仕草などを観察しながらトイレ案内、介助を行っております。全員が昼夜トイレ使用となっております。	昼夜、トイレでの排泄支援を入居者全員に実施している。おむつだった入居者も、ホームの生活や活動が適度な刺激となってリハビリパンツになり、現在は布パンツにパッドで、トイレでの排泄ができるようになっている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎食時の献立に繊維質の食物や乳製品などを取り入れるなどの工夫を行っております。状態に合わせ医師の診察を受けております。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	健康状態に合わせて入浴して頂いております。利用者様のご希望に応じて、日中、夜間入浴を行っております。	入浴時、洗う順序や細部の手順、個別のソープ等、その人に合った支援をしている。入浴したくない入居者には「温泉に行こう」と誘ったり、お風呂を意識させないように誘導したりしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々人の生活リズムに合わせて起床しております。また、どうしても皆さんと一緒に食べれない時などは、食事時間を遅らせて召し上がって頂いております。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	「お薬説明書」は各利用者様の生活記録に綴り、通院時に役立てております。薬箱への入れ間違いがないかスタッフ2名で確認しております。また、服薬の際には、スタッフが入居者様のお名前と日付を声に出して確認し、服薬をしております。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの嗜好に合わせて提供しております。楽しみとなるような行事を計画したり、掃除や野菜の収穫など役割を持って生活して頂いております。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	入居者様と一緒にドライブを兼ねて外出したり、また、外に出たい入居者様がいらっしゃる時は、スタッフが寄り添いながら支援しております。	年間の計画で、花見、新緑、コスモスの見物や初詣に家族も参加し出掛けている。その他に人気の互市に行ったり、入居者の状況に合わせてドライブしたりする。干し柿用の柿をもらいに出掛けることもある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理の出来る方については、ご自身で管理出来る金額を所持して頂き、外出時に自分で好きな物を購入して頂いております。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	要望等に限らず、状況等に応じて、通院結果や外出でのご様子等を連絡しており、その際は、入居者様にも電話でお話して頂いております。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	家庭的な雰囲気を作り出す為に、季節に合わせた装飾を行ったり、玄関や日本間には、入居者に生けて頂いた花を飾っております。	食堂の壁面の一部が居室の障子窓であり、和風の雰囲気を醸し出している。折り紙の花等を飾り落ち着いた空間となっている。ベランダに木製のテーブルや椅子があり、外の風景を楽しむことができる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールの一画にソファを設置し、入居者様同士やスタッフと談話出来るスペースがあり、また、食事の際には、入居者様同士で会話のしやすい方との席を配置するなどの配慮をしております。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	随時、ご家族様及び入居者様とお話し合いをしながら行っております。また、ご自宅より馴染みのタンスなどもお持ちして頂いております。	居室は畳み敷で、窓も障子でゆったり落ち着いた気分になれる。掃き出し口が各居室にあり、災害時に安全に避難でき、安心して生活ができる。写真等飾って自分の部屋として楽しく過ごしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室、台所、トイレ、浴室等にさり気ない表示をしております。		